

# 日照りに耐え、やせ地によく育つ牧草

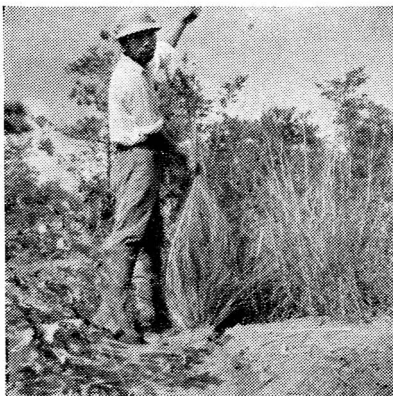
## ウイピングラブグラス

近 藤 隆

ウイピングラブグラスは、乾燥した禿山、砂地あるいは不良土壤、傾斜地等のやせ地にもよく耐えて生育し土壤侵蝕防止を兼ね、早春の飼料として利用出来る強靱な多年生いね科の牧草である。最近本草の価値が認識され、広く栽培されるようになったが、以下その概略を記してみよう。

### 一 来 歴

ウイピングラブグラスは、南アメリカの原産で一九二七年にアメリカの植物探險者によつてタンガニーカの山地で発見され、現在アメリカで主として太平洋南西部大平原、マサチューセツツ地方で栽培されている。わが国では一九四九年青森種畜場、一九五〇年農林省林業試験場とその他長野県、香川県、広島県等多くの県で試作されて以来、瘠地の牧草、土壤侵蝕防止用の草とし



禿山に生育したウイピングラブグラス

て非常に有望なことが認められて来た。一九五二年アメリカから種子一〇貫が輸入され、その後年々多量の種子が導入されているが、漸次全国的に土壤保全を兼ねて飼料生産をする目的から栽培されるようになった。なお同属のものとしてサンドグラス、

レマンラブグラス、ボーアララブグラスがあり、ともに乾燥した瘠地にも適する粗い草としてわが国の一部で試作されている。

### 二 一般性状

ウイピングラブグラスは、非常に細い針状の草で、生草も早く、分蘗力、再生力が旺盛で、採種も、繁殖も、取扱ひも容易である。耐暑性、耐旱性が極めて強大であるが、とくに日照りに強いのでかなり条件の悪い所でもよく繁茂する。草丈は普通二―五尺に達し、高い茎に小さな種子を豊富に生じ、茎部には極

めて長く繊細且つ柔軟な葉が四方に垂下しているのがウイピング（枝垂れる）という名がある。一年生のもので葉長が三尺三寸、分蘗一五〇―二〇〇本、地際直径一―一二尺、また二年生で葉長三尺五寸―五尺、高さ一尺―三尺、根長一尺、生草量（一株）二〇〇―四〇〇匁、三年生では葉長三―五尺、株高一尺六寸―二尺三寸、株張三尺、一株の分蘗一、〇〇〇―一、五〇〇本、一株生草量二五〇―八〇〇匁となり、その生育は早い。播種当年は出穂する事は少ないが、二年目より良く出穂し、東京では五月下旬―六月中旬出穂し、六月下旬―七月上旬に成熟し、岡山、広島地方では五月中旬に出穂し七月中旬成熟するが、鹿児島では四月に開花し、五月―六月に採種できる。発芽率は良く八〇―九〇％に達し、種子が小さいので一握の種子で一町歩の草地化が出来るといわれている。種子の一升重量四三〇―六〇〇匁、粒数二〇〇―四〇〇万粒である。

### 三 適 地

ウイピングラブグラスは、耐暑、耐旱性第一表 刈取月別飼料成分表（％）（倉田）

| 刈取月日      | 成 分 | 水 分 | 粗 蛋白質 | 粗 脂肪 | 粗 セ  | 可 溶 無 窒 素 | 粗 灰 分 |
|-----------|-----|-----|-------|------|------|-----------|-------|
| 七月一五日一番刈  | 七五  | 七五  | 六七    | 三・五  | 二七・五 | 五・二四      | 四六・九  |
| 九月一五日一番刈  | 七四  | 六六  | 六二    | 三・〇  | 二六・〇 | 四九・二三     | 四〇・九  |
| 一〇月一五日二番刈 | 五二  | 六八  | 六二    | 六・五  | 二七・五 | 四九・六五     | 四七・九  |
| （七月一五日刈後） |     |     |       |      |      |           |       |
| 二月一五日二番刈  | 五八  | 六六  | 二五    | 二・五  | 二四・六 | 五五・二      | 四六・八  |
| （九月一五日刈後） |     |     |       |      |      |           |       |

が特に強いため、原野、乾燥した禿山、瘠地、砂地、傾斜地等他の牧草が良く生育しない所にも育つことがこの草の最大の長所で、排水がよければ大抵の土壤によく生育するが、砂質壤土を最も好む。しかし粘質土壤にも良く繁茂する。ただ排水不良の低湿地においては良好ではない。本草の欠点としては、耐陰性、耐寒性が劣ることであるが、アメリカにおける研究では適度の湿度のある所では零下一〇―二〇℃の寒さにも耐え得るとされている。北海道では越冬しない。

### 四 飼料的価値

ウイピングラブグラスは葉はやや粗剛であるが、早春葉のまだ軟かいうちに利用すれば、早期の家畜飼料としても役立つものである。早期に刈取れば、乾草としても優れ、粗蛋白質の含量も稲藁の二倍くらいもある。（第一表）ともかく、他の優良牧草が生育しない土地に草地改良の第一段階として栽培してこそ価値があるものといえる。

## 五 栽 培 法

春播きにする時は三月下旬～四月上旬にまくが、六月下旬まで播種し得る。また千葉県から西の太平洋

地帯の暖地では秋播もよく、九月中・下旬に播けば翌年立派な草地となる。播種量は反当り一畝前後を均一に播き、条播の場合には畦幅二～三尺が適当である。播種量が多過ぎると過剰の個体が多く、生育が阻害されるので、やや少なめに播くべきで、そのために間隙が出来ても、間もなく充滿されるものである。また覆土が深過ぎると発芽が悪くなり種子の浪費となるので、覆土は薄く二分くらいとし、発芽、成長をうながすため覆い藁を

すると結果が良い。苗を仕立て、移植するのも良い方法で、条間二～三尺、株間一～二尺に、苗が三～四寸くらいの頃移植する。普通一坪の苗木から五〇〇～六〇〇株を得ることが出来る。



傾斜面に利用されたウイピングラグラス（等高帯状に御注意下さい）

る。砂地、傾斜地等ではこの方法が確実であり収量も多い。傾斜地の場合は等高線に移植した方がよい。施肥量は特別の場合を除き必要としない。瘠薄な山地あるいは砂

地等に播くには初期の成育を助長するため適宜施肥をすると爾後は追肥しなくとも旺盛に生長をつづける。

## 六 利 用 法

ウイピングラグラスの主なる用途は一般牧草では生育しない様な砂地、瘠せ地、禿山等の草地造成と土壤侵蝕防止用、とくに不良土壤、傾斜地の土壤保全用草として利用されるもので、この

第二表 作物の種類と死亡土壤量（四国農試）

|           |   |   |   |                   |                 |                 |
|-----------|---|---|---|-------------------|-----------------|-----------------|
| 降         | 雨 | 月 | 日 | 七月二〇日             | 八月二〇日           | 八月二一日           |
| 雨         |   |   |   | 三〇 <sup>(m)</sup> | 二四              | 四〇 <sup>廿</sup> |
| 裸         |   |   | 地 | 六四 <sup>其</sup>   | 一六 <sup>其</sup> | 六六 <sup>其</sup> |
| ウイピングラグラス |   |   |   | 一六                | 〇・二             | 〇・三             |
| ヤハズ       |   |   |   | 一四                | 〇               | 〇・三             |
| 玉蜀黍       |   |   |   | 五六                | 六               | 九               |
| 大豆        |   |   |   | 四三                | 七               | 五               |
| 苧         |   |   |   | 元                 | 七               | 六               |

## 七 収 量

五度の花崗岩系砂質壤土における主なる畑作物の区と、牧草区及び裸地区との土壤流失量を比較したもので、作物の種類、生育の時期により侵蝕の程度が著しく異つてゐる。中でもウイピングラグラスやヤハズソウの牧草区は、その繁茂が進むにつれて急速に流亡の防止の効果が現われ、八～九月の強雨に対しても殆ど完全に土壤が保護されている。また繁茂が旺盛で腐植質を多

乾草収量は乾燥地で反当約六五貫、良好な土地で約二六〇貫で歩止りは大体三割一五割である。収量は条播より撒播の方が大であるが利用方法によつて、計画すべきである。生草収量は反当約二一三、〇〇〇貫と見られている。

（雪印種苗・上野幌育種場）

## 果樹苗木類秋植球根類特集号発行の御知らせ

今年も七月に入り秋播きの準備などで大変忙しい時と思います。又各種苗木、秋植球根類の定植の時期も間近くなつて来ましたが、最近では果樹ブームと申しましよう。果樹を植付け経営の合理化をはかられる方が大変多くなつてまいり又球根等を取入れ花や学校等の環境の改善に、球根類の需要は益々高まりつづけております。当社におきまして、このような皆様の御要望におこたえすべく、春以来鋭意優良苗木球根の生産に従事いたしてまいりましたが、苗木類も順調に生育いたしており秋には必ず皆様の御期待にそうすることが出来るものと確く信じております。向「牧草と園芸」八月号は果樹苗木球根類の特集号として八月月中旬発行予定ですので御期待下さい。